

科目名 Course Name	心理学 Psychology	ナンバリング No.	A1-001				
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	藤田 依久子						
連絡先(質問等)	C-Learning で対応						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程選択必修)						
関連 DP	DP5						
授業の概要と到達目標	<p>本講座では、薄く浅い人間関係から深みのある人間関係確立に向けて、我々は何をなすべきかを考える。人間は言葉や規範を作って、意思の伝達をすることで情報を共有し、社会を構成している。つまり、人は、一人では生きることができず、社会によって生かされ、社会によって様々な知識や態度を身に付けて、「ヒト」から「人間」になっていく。社会的生物としての人間について総合的な理解を目指す。まず、人と人との間で交わされる対人コミュニケーションについて解説し、情報を伝達する為のコミュニケーション、ラポール形成のためのコミュニケーション、人を説得する為のコミュニケーション等様々な種類のコミュニケーションに関して概説し、対人関係についてコミュニケーションの側面から考える。</p> <p>以下の事項の達成を目指す。</p> <p>(1)心理学で議論されているさまざまなテーマについて検討し、自身のもつ課題や生活の中の身の回りの事例とともに考察できるようにする。</p> <p>(2)対人コミュニケーションに関わる理論や概念を理解する。</p> <p>(3)講義で論じられる個々の知見を断片的に理解するだけではなく、人間行動に対する社会心理学的アプローチの本質を感じ取れるよう実践知の習得を目指す。</p>						
授業の方法	視覚教材等を活用しながら講義形式にて進行する。単元の終了ごとに小テストを行う。学期末に筆記試験を実施する。						
学習成果	L01	対人関係技能や社会的ルールにおける心理学的要素を弁え、実践できる。					
	L02						
	L03	② 個人や集団の行動の裏に潜む、反応の根拠や法則性に気づき、言及できる。 ②興味を持って人間の営みを観察する視点を身につけ、社会的な課題に対し、学んだことと身近な事象とを結びつけることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	単元の終了ごとにコミュニケーションカードによる質問を受け付ける。翌週の授業はじめに共有が必要と思われる内容に関して共有する。						
教科書/参考図書	教科書:『新版対人コミュニケーション入門』藤田依久子(著)ナカニシヤ出版(2022) 参考図書:『理解できない他者と理解されない自己—寛容の社会理論』数土 直紀(著)勁草書房(2001)、『コミュニケーションの科学』田中靖政(著)日本評論社(1969)						
履修上の留意点やルール等	授業に主体的に臨む学生の履修を希望する。事前・事後学習時間の目安は各回 180 分相当とする。						
担当教員の実務経験	実務経験(公認心理師, メンタルコーチ, 医療心理士他 通算 27 年)						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講義を聴き、重要だと判断したことは主体的に教科書に書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。	20			
レポート/作品	演習後のリアクションペーパーの内容を評価の対象にする。演習に真摯に取り組む、その体験から得たことを的確に文章化できていることを期待する。	5			

発表				
小テスト	日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学期末試験での成果が期待できるしくみである。			15
試験	設問への妥当な回答、学習の成果が反映されている回答がなされていることが評価の要件となり、日常生活における事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。			60
その他				
合計		25		75

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス
	事前・事後学習	シラバスをよく読み、講義の内容を自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。ポイントを授業内で知らしめるので、事後学習として、普段疑問を感じている一般的な対人的現象、人間行動的矛盾をノートに書き出す。これが次回のための事前学習ともなる。
2	授業内容	コミュニケーションとは何か
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
3	授業内容	知覚プロセス
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
4	授業内容	自己と他者
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
5	授業内容	対人魅力と印象形成
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
6	授業内容	ステレオタイプと返報性
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
7	授業内容	オーラルコミュニケーション
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
8	授業内容	ノンバーバルコミュニケーション① 分類と用途
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
9	授業内容	ノンバーバルコミュニケーション② 動作学と近接学
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
10	授業内容	自己開示と自己呈示
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
11	授業内容	態度変容の理論① 態度と心理的リアクタンス
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
12	授業内容	態度変容の理論② POX 理論と認知的不協和理論
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
13	授業内容	交流分析① 人の性格の特徴や傾向
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
14	授業内容	交流分析② 交流の分類
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。
15	授業内容	交流分析③ ゲームの分析 総括
	事前・事後学習	講義の内容を、自分の日頃の生活場面と照らし合わせ、理解するよう自習する。